

経口内視鏡的筋層切開術 (per - oral endoscopic myotomy : POEM)について

○ 術者 立田哲也 助教

- ・ 28年4月1日～29年3月31日 昭和医大井上教授のもとで研修
- ・ 7月21日には、井上教授にもお越しいただき、ご指導・解説いただきました。

○ 経口内視鏡的筋層切開術(per-oral endoscopic myotomy : POEM)の概略

- ・ 食道アカラシアは、食道と胃のつなぎ目の筋肉が緩まなくなり食物の通過障害が生じ、つかえ感や嘔吐、胸痛等の症状が生じる稀な疾患です。これまでは固い風船で内側から広げる方法や、外科的に食道の外側から筋層切開する方法がとられていましたが、2008年に昭和大学 井上晴洋教授が経口内視鏡的筋層切開術 (per-oral endoscopic myotomy : POEM)を開発、良好な治療成績・安全性を証明し、2016年に保険適応となりました。
- ・ 2017年7月21日、北海道・北東北で初めて、弘前大学医学部附属病院で第1例目を施行しました。この治療は全身麻酔下に行います。口から内視鏡を入れ食道の狭窄部より約10cm口側の粘膜表面に2cmの穴をあけ粘膜の裏側へ入り込み、筋層を切開します。粘膜に開けた穴を縫い合わせ終了します。術後数日は胸痛や発熱を認めることがありますが、重篤な出血や感染症などの偶発症は少ない治療です。入院期間は7-10日程度です。
- ・ 今後は、北海道や秋田・岩手から、患者さんを紹介いただけるものと思います。

